――東日本大震災――

「12年の日々」を見る〈上〉

ふくしま森林再生事業で、放射性物質の移動を防ぐため山林に設置された柵

出荷しやすいように、魚種別、サイズ別に手作業で仕分けを行う関係者

政府は一月、東京電力福島第一原発で発生したALPS処理水の海洋放出について、今年春から夏頃にかけて実施する方針を明らかにした。一方、漁業従事者や業界関係者の理解が得られないまま進められている同計画には、疑問や怒りの声が途切れない。

東日本大震災の発生から、三月十一日で丸十二年。帰還困難区域などを抱える相双地区を除けば、いわき市をはじめ県内はハード面の復興事業が終了し、平穏に見える。だが月日を経ても、海にも山にも、被災者や避難者の住む公営住宅にも問題は大きく横たわる。震災の影響は、いまだに続いている。